

5月30日第一回目日本語教育研修会は交流協会台北事務所の文化室の主催にて行われた。日本語教育の新趨勢として応用と通訳にテーマが絞られた。約40名の日本語教師らが勉強し意見交換した。

前半では「応用日本語教育の新趨勢新課程通訳翻訳の即戦力を培おうその1ー国際現状と実践」において、通訳と翻訳の大きな違い、20世紀と21世紀でのニーズの大きな違いは特殊な業種ではなく、一般的に広く必要とされる業種になったことを説明した。国境を越えた民族の大移動が医療界でも実際に始まっていること、少子高齢化から一般社会でも通訳翻訳のニーズがあることを例を挙げて説明した。また、日台で実際に活躍中のアジアンワイズが推進する介護看護人材と医療通訳人材養成の資料を基に、東アジアの日本語教育に関する最新情報を紹介した。例えば、中国/台湾/日本の東アジアにおいて、日中通訳言語に長けた介護マネジメント人材がトップニーズに上げられていること、2025年までに100万人の介護外国人材を導入する日本の開放政策、5000万人富裕層が日本式介護経営を任せたいという6兆ドルのニーズ、台湾の介護法が2015年5月に公布されて以来、台湾国内では日本に目が向いていて質の高い介護経営の機転が利く日中人材が必要不可欠である事など。

20世紀の通訳翻訳は先進国の文学・文化・医療科学を導入するための重鎮であったが、いまではコミュニティの生活の裾野にまで通訳と翻訳が必要とされるので、21世紀の日本語教育における新趨勢新課題は文学・語学はもちろんの他、医療や健康観光の応用ジャンルを取り入れた科目が脚光を浴びよう。

後半の講義では通訳翻訳に欠かせない初歩的な技法の練習を先生方と行ってみた。勉強は遊びである。勉強が苦しいと学生は興味を覚えず、暗記やら苦学を避けて学習するので、効果があまり期待できない。だが、勉強の最終目標が面白い、将来ためになる、こんな技を使えば自分も出来るとなると、ゲーム感覚で第二言語学の習得が苦痛ではなくなる。そんなときに役に立つのが通訳や翻訳の技法である。文章の読解や視覚とサイレントシャドーイングをパッケージにしたスラッシュリーディングがそうである。ワークショップではスラッシュリーディングのツール、セッティング環境などを説明し、一緒に練習した。そして次にワーキングメモリの音韻ループとスケッチパットの理論を応用したシャドーイングの環境を説明し、練習に入った。そのほかに一心多用の練習、パラフレーズの練習などもした。

最後のQ&Aでは積極的な質問をいただいた。介護の知識がなくても日本の介護ライセンスを取得する道があること、介護の日本語教育あるいは介護看護通訳を育成し、学習者のキャリアの道が開け、それが東アジアで重視されることを先生方に伝えた。会場からのコメントはもっと通訳の技法、介護の日本語教育、介護の通訳教育について知りたいとあった。